

サイエンスコミュニケーションを通じた全世代に訴求する SDGs 普及プログラムの開発

(指導教員) 山田和芳

1. はじめに

2015年に国際連合にて採択されたSDGs(持続可能な開発目標 Sustainable Development Goals;SDGs)は理念先行ともいわれ、一般市民に十分に浸透していないという課題が残っている。そのため、SDGsの内容をわかりやすく、個人にとって身近なものとして捉えられるようにする必要がある。

そこで本研究では、現在行われているSDGs普及イベントの課題を洗い出し、サイエンスコミュニケーションのアプローチを用いて博物館にてSDGsに関するイベントを企画・実施した。そして、その効果についてアンケート調査を基に検証して、世代別理解度の違いについて考察した。

2. 事例にみるSDGs普及イベントの課題

西武鉄道が環境活動・地域貢献活動プロジェクトの一環として提供しているSDGs普及を目的とした体験型イベントを対象として、訴求可能層や効果的な点、問題・課題点について分析して整理した。

結論として、SDGsという内容の難しさや、体験する内容やスキルに年代層によってハンディキャップがあること、および参加者を全年代(オールターゲット)にすることの困難さが課題点として挙げられた。このような課題を克服するためには、年齢別に分類して、段階(年齢)別に、理解度や達成度を設定することや、科学実験など体験プログラムをイベントの構成要素に加えるなど工夫してイベントを企画する必要があることが考えられた。

3. 博物館イベントの実践研究

3-1. プログラムの作成

「水」を題材として、SDGsが掲げる17の目標のうち「3:すべての人に健康と福祉を」、6:安全な水とトイレを世界中に」、14:海の豊かさを守ろう」以外に、「11:住み続けられるまちづくりを」も水が強く関わっていることを示す体験型プログラムを作成した。その際、全世代に訴求できるように子供向けの内容から大人向けの内容へ理解度が難化するような4

段階のプログラムとした。

3-2. イベントの実践

2023年11月3日(金・祝)にふじのくに地球環境史ミュージアム(静岡市駿河区)の秋イベント「大学生と考えるSDGsニューワールド みずみずしい水!」として午前、午後の2回にわたって実施した。参加者数は総数19名(うち小学生2名)であり、すべての参加者から属性(性別、年齢層)および各レベルの理解度に関するアンケート調査を実施した。

4. 結果と考察

理解度を「Level1水の性質」、「Level2水と地質」、「Level3水と文化・歴史」、「Level4水と地球環境問題」に分けて5段階で評価した。また、大人・子供、および男女別での理解度の違いについても検討した。

・大人と子供の違い

大人と子どもで比較した結果、子どもはLevel1とLevel2において新たな学習があったが、Level3とLevel4においては新たな学習はあまりなかった。これは、比較対象とした知識として必要な情報をもっていないためLevel3とLevel4の内容が難しかったことを示している。また、大人はLevel1において回答にばらつきが見られた。この理由は大人にとっては周知で優しすぎる内容であったためと推定できた。

以上のことから、今回のようなイベントのつくり方は、家族(大人と子供)でイベント参加する層に対して充実した内容を届けられることが示唆される。

・性別の違い

男女で比較した結果、男性より女性の方がすべてのLevelにおいて高い理解度を示していた。中でもLevel3とLevel4は、その傾向が強かった。この理由は、女性の方が料理や文化など日常生活に関わる機会が多いためであると示唆される。

本研究によって、SDGsの理念の浸透のためには、サイエンスコミュニケーションを活用すること、世代別理解度の違いを考慮しながらイベントを実施することが有効であると判断される。